

日本語と日本文学

第 11 号

大正初期の随意選題の状況……………高森 邦明……(1)

——保科孝一の紹介と諸家の実践——

『とはずがたり』後篇の起筆……………寺島 恒世……(13)

——巻四冒頭部の意味と機能——

小学館本『住吉物語』の本文の素性……………岡崎 和彦……(22)

大鏡の待遇表現の考察……………金 仁珠……(31)

——待遇主体の評価的態度をめぐって——

主題省略の再生メカニズムにおける

日本人と外国人日本語学習者の相違……………平川 八尋……(左 1)

現代日本語における「話題主」と「聞き手」の

上下関係が話し手の敬語表現に及ぼす影響……………鄭 惠卿……(左 9)

平成元年6月

筑波大学国語国文学会

投稿規定

一、投稿論文は三十枚程度。

一、原稿〆切は毎年度、二月末日および八月末日。

一、原稿送り先

305 茨城県つくば市天王台一一一

〒 筑波大学 文芸・言語学系事務室内

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

昭和六十一年総会で『日本語と日本文学』

誌の年二回発行が決まりました。これは創刊当初に計画しました最小発行回数をようやく実現できたものであります。

これに従い、編集委員会では投稿規定を一部改め、二月末日および八月末日の二度締切を設けることにしました。論文の対象分野および枚数三十枚程度は従来通りとします。

学会の顔ともいふべき本誌の一層の充実は、強く願われるところです。学内外を問わず、広く会員の皆様の投稿を仰ぎ、さらなる発展を期したいと思います。

積極的に御協力下さいますようお願い申し上げます。

編集後記

『日本語と日本文学』の刊行も順調に進み、号数も十代となりました。今後、年二回の刊行が継続されていきますことを願い、かつ確信して、本号から号数の表記を、漢数字からアラビア数字に変更させていただきます。御寄稿を改めてお願い申し上げます。

(桑原 隆)

平成元年六月二十日印刷
平成元年六月三十日発行
第11号

305 茨城県つくば市天王台

〒 筑波大学 文芸・言語学系内
編集・発行 筑波大学国語国文学会

代表者 伊 藤 博

発行所 (有) 笠 間 書 院

101 東京都千代田区猿樂町二二五
〒 電話〇三(二九五)一三三二(代)
振替口座 東京 一五六〇〇二